



# Executive Interview

エグゼクティブ  
インタビュー

## no.21

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

株式会社 愛犬ハウスセキノ 代表取締役

## 関野 義敏 様

神奈川県内のみならず、全国各地からお客様がやってくるブリーダーショップ、株式会社愛犬ハウスセキノ。自然に恵まれた秦野市で、「愛される犬」を生み出し、その本質を探求し続けてきた代表取締役 関野義敏氏にお話を伺いました。

### ■信頼が全ての基本に

——平成元年より事業を始められたということですが、どのような経緯で？

もともと養豚や農業を行っていたのですが、県下での畜産業の環境基準規制や飼育環境が年々厳しくなり、転業を決意しました。子供の頃から動物は好きでしたし、柴犬の飼育とドッグショーへの参加経験が10年ほどありましたので、犬の仕事をやろうと思ったのです。



——平成の歩みとともに発展することとなりましたが、順調でしたか？

最初の頃は無我夢中。お客様の要望に応えようと、扱う犬種を徐々に増やしていき、一時期70~80種となったこともありました。現在は絞り込んで40種ほどになりました。

——何か思うところがあったのでしょうか？

お客様の言葉がきっかけです。4年目に入った頃、こう言われました。「なぜ販売した時、この犬種の欠点を言ってくれなかったのか」と。お客様の年齢やライフスタイルによっては元気がありすぎると困る等、飼ってから犬種独自の特徴に気づく場合があります。それら「欠点」となる要素を事前に十分に説明したかどうか。また同じ犬種でも血統的に性格が優れていたかなど、振り返ってみました。そうすると改善点が浮かび、新たな目標が見えてきたのです。

——具体的には、どんな目標でしたか？

お客様への説明はもちろんですが責任ある売り手として、性格的に人間と相性のいい、飼育しやすい犬を作ろうと決意しました。それには優良な血統の犬が必要です。どこの国の犬がいいか50カ国ほど調査し、オーストラリアからの輸入を決めました。

——決められたポイントは？

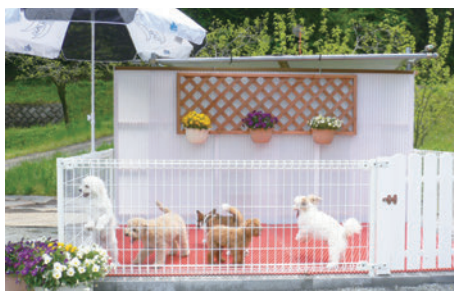
ペット先進国であるイギリス、オーストラリア、ニュージーランド、ドイツ、デンマーク、アメリカなど選りすぐりの国を調査した結果、最終的にオーストラリアに決めました。しかし、オーストラリアではアジア地域への偏見と、信用の置ける買い手にしか犬を売らないという、お金よりも名誉を重んじる気風の国でした。そこでドッグショーに出向き、人間関係を構築し、日本人が



# 犬がいる暮らしは、喜びに満ちている。 命あるものだからこそ、 責任を完全に果たしたい。

どんな風に犬を愛しているのかを説明しました。私が長年育ててきた柴犬は、かの地でも人気犬種でしたから、長所を褒め、あえて欠点は口にしませんでした。無理に話した時に生じる嘘やおべっかは、信用を損ねるものだと思っていましたから。

そうやって得た信頼が積み重なり、輸入量も増加。優良な血統は増えていったものの、さらに問題点が目につきました。躰の問題です。日本での躰はスパルタ教育が多いようでした。欧米では褒めて教える方法がとられています。犬にとってストレスが少ないこの方法を日本にも導入できないかと、オーストラリアの知り合いに相談しました。そこでジュディ・ロジャーさんという素晴らしいインストラクターを紹介していただき、1年ほど我が家で寝食を共にし、訓練方法を教えてもらいました。現在、日本で広がっている欧米式の訓練法はジュディさんと共に20年以上も前からセキノでは取り入れていた訓練法なのです。



プーリアやパピコなど、現在、注目のデザイン犬は、健康面や性格、可愛らしさなど、人に愛される要素を考慮して生み出されます。飼い始めたら、犬との暮らしは長く続くもの。その現実をしっかりと受け止め、訓練やホテル運営など、飼い主の様々なライフスタイルに応えるサポート事業にも力を入れています。

——ジュディさんはどんな方だったんですか？

初めて見せてもらった写真は乗馬服を身につけた、いかにも「上流の貴婦人」という姿。「こんな立派な方とは暮らせない！」と(笑)。でも、彼女は素晴らしいプロでした。我々の負担にならないよう、日本の習慣に全て従ってくれました。現在、オーストラリア支店をお任せしていますが、有能で正確な仕事ぶりにはずっと助けられています。

■TV出演をきっかけとした新たな展開

——さらに大きな転機となったのは、テレビ出演だったとか？

テレビ東京の「TVチャンピオン」に出演した後は、駐車場に車が入りきらないほどの大行列。テレビの力はすごいな、と感じました。日本テレビの「志村どうぶつ園」に何度か出演していますが、毎回テレビの影響力を思い知らされます。しかし、人気になりすぎても犬の数には限りがあります。そこが生き物を扱う仕事の難しいところでしょう。



株式会社 愛犬ハウスセキノ

〒259-1323 神奈川県秦野市栢窪240  
TEL 0463-88-2611  
FAX 0463-88-4812  
URL: [http://www.ahs.co.jp/index\\_st.html](http://www.ahs.co.jp/index_st.html)

——なるほど、モノではなく命あるものですかね。

ある意味、車よりも付き合いは長くなりますよ(笑)。犬を飼い始めたら、途中でやめられません。ずっとつきあっていくことになるのです。だからこそ「飼いやすい」というのは大切なポイントになります。

——そのために生み出されたデザイン犬にも力を入れているとか？

「介助犬としてアレルギーの出ない犬を」「性格の穏やかな犬が欲しい」などの要望から、違う犬種を掛け合わせたデザイン犬が作り出されました。古来より、犬は狩猟など役割に特化するために改良されてきましたが、デザイン犬は愛されるのが目的。雑種やミックス犬とは違い、デザイン犬は、人に愛される遺伝資質を多く受け継いでいます。我々には家系の資質、遺伝力についての膨大なデータがあるので、それを活かしています。飼い主に愛される犬ならば、長く無理なく付き合い合っていけるはず。犬のいる暮らしは素晴らしいものです。お客様にとって犬との暮らしが充実した毎日となるよう、我々はもっと努力していくつもりです。

<インタビューを終えて>

取材後、犬舎を案内していただきましたが、人を見ると嬉しそうに尾を振る姿が印象的でした。子犬たちは、これから飼い主の元で、長ければ20年ほどの時間を一緒に過ごすこととなります。

彼らが、ずっと幸せであるよう、誰よりも願っている。そのためにできる手段を講じている。そんな真摯な思いを、丁寧に愛情ある説明から感じました。